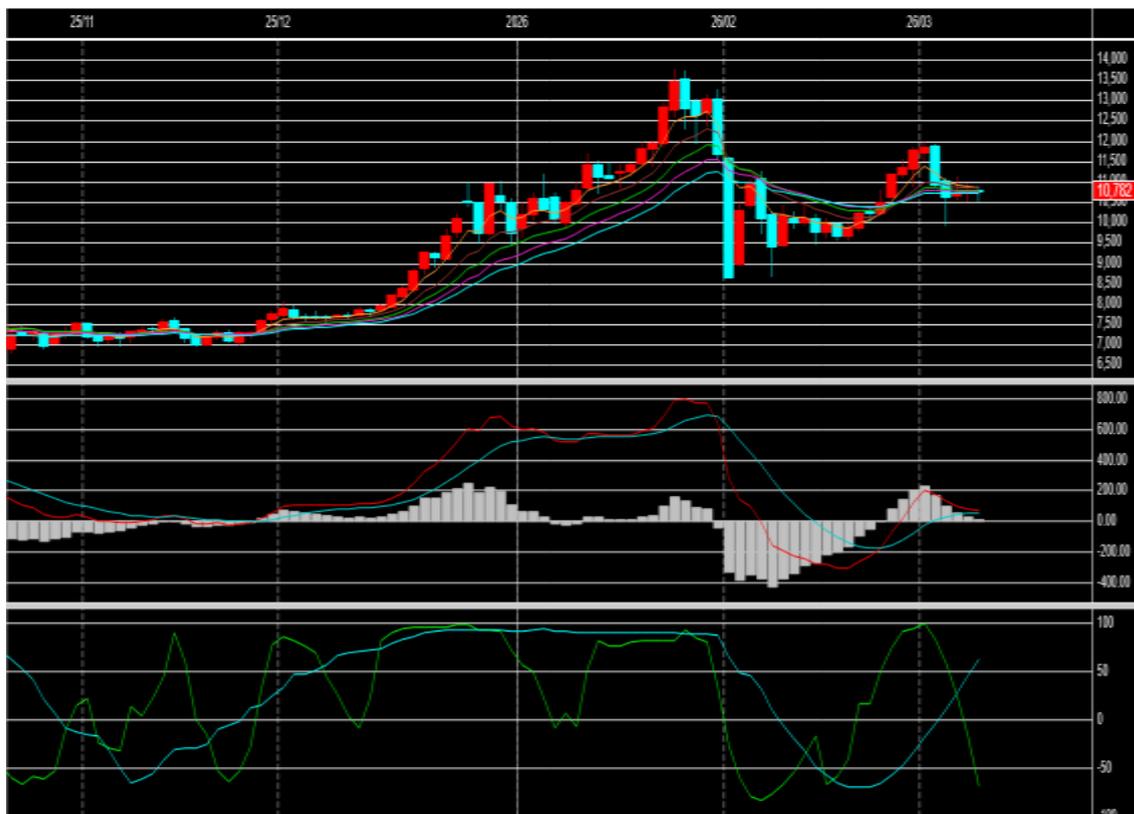


<白金標準、WPIC、2026年も供給不足で4年連続の供給不足示唆・・・>



(出所：オアシス)

WPIC 第4四半期 PGM 需給報告では、2025年は34トンの供給不足を示し、2026年の需給バランスでは、昨年11月の報告で0.6トンの供給過剰から総投資需要が35%増加し7トンの供給不足へ下方修正している。また地上在庫は、世界需要の4ヶ月分強の水準に留まると発表している。特にWPICのCEOは「需給バランスにまだ反映されていない項目として、昨年11月に取引を開始した広州先物取引所に保管されている取引所在庫が挙げられます。これが公表された場合、供給不足は現在の予測よりも拡大する可能性があります」と指摘し、今年10月に最初の納会を迎える事から2026年第4四半期は供給不足が大幅に増加する可能性が指摘されている。特にイラン戦争で景気商品である白金標準先物は、一時9938円までリスク逃避で売られているも、WPICの需給報告を受け、10500円を超える水準まで戻している。そのためイラン戦争の不確実性の高まりは一時的に10000円を割り込む動きを見せたが、需給要因から10000円を下回る値動きは行き過ぎであり、アンダーシュートの域に思え、10000円～11000円の狭いレンジの値動きに注目しながら、狭いレンジからの離脱を待つのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが切り下げ、シグナルは切り上げている。RCIでは短期が下落し、長期は上昇している。特に日足が狭い指数平滑移動平均線のレンジ内で推移しており、11000円を超える値動きを待つ状況に思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 5,840,000 円(2026 年 3 月 9 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 121,440 円(2026 年 3 月 9 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>